

スポーツコミッションの設置による新たな効果をどのように期待しているか リスペクトふじ

議員 スポーツによる地域活性化のさらなる推進を図るため、大会や合宿等の誘致に積極的に取り組むスポーツコミッションを設置するようだが、設置による新たな効果をどのように期待しているのか。

市長 スポーツコミッションは、行政や民間組織等が連携し、年間を通じて、スポーツ大会や合宿などを市外から誘致するアウター事業と市民スポーツ振興などのインナー事業に取り組み、スポーツによるまちづくりや地域活性化を推進する組織である。スポーツコミッションを設置することで、交流人口の増加による経済的効果や市民へのスポーツ

文化の浸透といった効果のほか、関係団体との情報共有や連携により、市全体として迎え入れる体制が確立されることで、大会主催者、来訪者の満足度の向上といった新たな効果が生まれるものと考えている。

本年4月には、富士市総合体育館北里アリーナ富士の供用が開始されるほか、富士川緑地の再整備が進み、大規模スポーツ大会の開催や合宿を実施する環境が整うことから、室内外を問わず、幅広いスポーツを対象に大会や合宿の誘致に取り組み、交流人口増加により、まちににぎわいをもたらすことを期待している。



富士保健医療圏における630事案が現時点でどのくらい改善しているか何う リスペクトふじ

議員 富士保健医療圏における救急受入れ困難事案、いわゆる630問題の解消を目指し、二次救急医療輪番体制に参加する医療機関を4病院に拡充するとともに、引き続き平日の朝から夕方までの受入れ困難時間帯の一次救急医療体制を確保することなどが、現時点で630問題がどのくらい改善しているか。

市長 本市では昨年1月から平日昼の時間帯に内科系・外科系一次救急輪番体制を構築し、同年11月からは、朝と夕方の時間帯についても私的病院に協力を仰ぎ、受入れ体制の整備を進めてきた。

これらの対策により、市内における救急搬送件数の速報値では、令和5年の1万157件から昨年の

1万822件と665件増加する中、630事案発生件数は309件から225件に減少している。特に平日昼の時間帯は、53件から13件と大幅に減少しており、一次救急輪番体制の効果が表れていると認識している。発生件数は他の医療圏と比較していまだに多い状況にあるので、救急安心電話相談窓口＃7119の周知など救急医療の適正利用に向けた啓発活動を行っていく。

これまで懸案となっていた二次救急医療体制について、2病院から輪番体制への参加を表明していただき、本年4月からは救急医療体制の拡充につながる大きな一歩を踏み出すこととなる。

今後も、医師会や協力医療機関の意見を伺いながら、立ち止まることなく市内救急医療体制のさらなる強化に努めていく。

煎茶で勝負したいと考えているお茶農家等をどのようにカバーしていくのか何う 凜の会・公明党

議員 富士のお茶の振興を図るため、富士のほうじ茶ブランド化や海外販路開拓の成果を踏まえ、市内茶業者の展示会出展や海外販路拡大を支援する補助制度を創設する。また、おにぎりや関連食材の魅力を国内外に発信する一般社団法人おにぎり協会に、お茶を特産物とする自治体として初めて加入しおにぎりサミットや会員自治体等が主催するイベントに参加するなど、富士のお茶の魅力を広く発信することなどが、煎茶で勝負したいと考えるお茶農家や製茶販売業者をどのようにカバーしていくのか何う。

市長 富士のお茶に関する啓発、宣伝と茶業の振興を図ることを目的とした富士のお茶振興推進協議会が開催する、富士山新茶フェアを支援するほか、市内外でのPR活動を行うなど、官民一体となってお茶の振興に取り組んでいる。

また、新年度から創設する富士のお茶販路拡大支援補助金は、国内外への販路拡大に取り組む市内の茶業者に対して、商談会やイベント等の出展に係る経費を支援するもので、煎茶を営む皆様にも広く活用いただきたいと考えている。

今後は、ほうじ茶の人氣が高まる可能性がある一方、煎茶も伝統的な価値があり、安定した支持を受け続けるものと見込んでいるが、本市としては引き続き、多様な種類のお茶を状況に応じてバランスよく支援し、富士のお茶全体の底上げを図っていく。

ふるさと納税のさらなる寄附額増加のためにクラウドファンディング型を活用する考えは 草の根ふじ

議員 ふるさと納税については、さらなる寄附額増加に向け、大都市圏でのイベント出展や、デジタルマーケティング等による特産品の魅力や特色の効果的な発信、新たな返礼品の開拓や開発など、戦略的な取組を展開していくとのことだが、クラウドファンディング型にも取り組んでいくべきだと考えるがいかがか。

市長 本年度における本市へのふるさと納税の寄附額は、2月末で63億円を超える寄附を集めており、昨年度の寄附額43億円を大きく上回っている。さらなる寄附額の増加を目指していくために

持続可能な給食の提供に向けた検討とは、どのような姿か 民主ふじ

議員 岩松北小学校の給食室を改修するとともに、小中学校における持続可能な給食の提供に向け検討することのことだが、フードマイレージや地産地消などSDGsの観点から、自校炊飯を再度見直してはどうか。また、持続可能な給食の提供に向けての検討とは、どのような姿での提供を目指すのか。

市長 地産地消やフードマイレージの観点からは、本市産の米を使用し、市内で炊飯することが理想と考えるが、安全・安心で安定的な供給が必要なことから県学校給食会と購入契約をしており、これにより、市外を含む業者が遠方から配送する状況が生じている。米飯を自校炊飯に見直すことは、

は、寄附者の満足度の向上や幅広く関心を集めるための取組を強化していく必要があると考えており、新年度は、産業政策課にふるさと納税推進担当を設置し、膨大な寄附件数に伴う丁寧な問合せ対応や新たな返礼品の開拓等を行うとともに、短期的な消費動向やトレンド等を踏まえた上で、本市ならではの返礼品の魅力や寄附金の使い道など、様々な情報を効果的に発信していく。

クラウドファンディング型ふるさと納税についても、寄附者が効果を実感しやすく、市内外へのPR効果のほか、資金調達手法としても有効であるため、プロジェクトの選定方法や目標額に達しない場合の対応など、導入に向けた検討を速やかに行い、新年度中の積極的な活用を図っていく。

洗米用のシンク、炊飯器、食缶洗浄機などを新たに購入し、これらを設置する場所が必要になるが、現在の各学校の給食室では、そのスペースの確保が難しいため、自校炊飯への見直しは考えていない。

また、本市では、毎年いずれかの学校において、給食室の長寿命化を目的とした改修工事を実施しており、改修中は給食の提供ができない状況が4か月程度生じている。改修する学校の児童生徒に給食を一定期間提供できなくなることは、課題であると認識していることから、改修中であっても、継続的に給食を提供できることが、持続可能な給食提供の一つの要素であると考えており、改修中の学校に対し、富士川学校給食センターや他校で調理した給食を提供する方法などについて検討していく。

音楽で市議会をもっと身近に「議場コンサート」を開催！

2月定例会の開会に先立ち、富士市議会初の取組となる議場コンサートを開催しました。この取組は、市議会を身近に感じていただくとともに、芸術文化を振興するために企画したもので、当日は、本市出身のフルート奏者川島祐子氏とピアニスト渡辺浩代氏による二重奏で4曲が披露されました。

傍聴した市民の方からは、「クラシックと議会の雰囲気が出ていた」「すばらしい演奏だった」「これからも継続してほしい」などの好評をいただきました。また、演奏者からは、「議場の空間がよいのか、きれいに響き気持ちよく演奏できた」などの感想をいただきました。



演奏をお聴きになりたい方はこちら▶

